



舞い上がれ青空のステージへ

鳩山新内閣が発足し、就任会見で「日本の歴史が変わるといふ身震いするような感激と、一方で大変重い責任を負った」と語り、注目を浴びました。同じように、今から5年前、小泉純一郎総理が衆参両院本会議で行った所信表明演説も話題になり、その結びで次のように国民に熱く語りかけました。

「“やれば出来る”は、魔法の合いことば」。この夏の全国高校野球選手権大会で活躍した高校の校歌の一節です。自らを信じて努力すれば、明るい未来を切り拓くことができる。幾多の試練を乗り越え、甲子園で奮闘した球児たちの姿は、まさにこの言葉そのものでした。

アテネオリンピックでもパラリンピックでも、日本人選手が多くの種目で素晴らしい活躍を見せ、我々に熱い感動と勇気を与えてくれました。自分の才能に甘えることなく、厳しい練習と血のにじむような努力を重ねてきた選手たちは、我々の想像を超える重圧に耐え、その実力をいかんなく発揮しました。(中略) いかなる困難があっても、くじけることなく努力する。失敗しても、次の成功への挑戦と受け止める。やれば出来る。勇気と誇りを持って、日本の明るい未来を築こうではありませんか。

さて、いよいよ体育祭が明日に迫りました。高校野球やオリンピックとはスケールが違うかもしれませんが、これまでの厳しい練習の成果をいかんなく発揮することに変わりはありません。明日は、詫間中学校グラウンドが「甲子園」になります。そして、見ている人々に熱い感動と勇気を与えてくれることでしょう。

『蝶、優雅に舞い踊れ』のテーマのもと、312名の蝶が、さわやかな風となり、澄み切った青空に大きく羽ばたいてくれると信じています。

「できるかできないか」ではなく、「するかしないか」である

体育祭が終われば、シルバーウィークと振替休業日が合体した大型連休になります。体育祭の疲れを取ることも必要ですが、今まで体育祭に打ち込んできたエネルギーを、これからは学習にも生かさなければなりません。特に3年生は、10月15日に第3回学習の診断があり、終わればすぐに20日、21日と中間テストがあります。そのため、学習モードに切り換えるため、家庭学習の課題を与えている学年もあります。

前号で、「努力のメカニズム」についての文章を紹介しましたが、これは勉強にも当てはまります。「できない、できない、・・・が続いていて、あるとき急にできるようになる。努力することによって見えない力が蓄積されて、あるときそれがあふれ出す。そのときに、できるようになると考えるとわかりやすい。

しかし、「自分はできない」とあきらめてしまっている者の多くは、結局何もしないまま終わってしまうのです。大切なのは、「できるかできないか」ではなく、「するかしないか」なのです。やればできます！

進化するHP

詫間中学校のホームページが開設したことについては、浦島伝説No15(9月8日発行)でお知らせしましたが、新たに、「玉手箱」と題した詫間中学校日記を掲載したり、体育祭予行の写真をアップしたりするなど、日々進化しています。

また、YAHOOやGoogleで「三豊市立詫間中学校」と入力し検索すれば、「三豊市立詫間中学校webページ」が出てきますので、それをクリックすればすぐにつながるようにになりました。

今後、ホームページに対する意見や感想等がありましたら、takumajh@gmail.comにメールしていただければと思います。

